

# あなたがここにいるから...2nd



## 校長雑感…雪小の強み。

いつものように校舎内をぶらぶらする中で、先日、1年生の授業を参観しました。その日の学習内容は「ひき算」でした。

### <問題>

水槽に金魚が5匹います。そのうち2匹を金魚鉢に移しました。水槽に残っている金魚は何匹ですか。

電子黒板や絵、ブロックで実際に操作しながら、各自がどんな計算になるのかを考えます。

その後、「へる」というキーワードをみんなで確認し、学習のめあてをノートに書きます。どんな計算になるのか言葉で考え、「ひき算」の概念について学んだのち、式の立て方を習い、実際に式を立て、答えを導き出します。いくつか練習問題で確認したのち、まとめをノートに書いて学習の振り返りを行います。

どの子も45分間、集中して学習に参加しています。ついこの前まで鉛筆の持ち方を学んでいた子供たちが、しっかりと算数のひき算の勉強をしていることに感動しました。

さて、やはり1年生七人七色、ブロック操作にかかる時間も違えば、ノートに書くスピードも違います。若干遅れがちな子供のところには、学習支援の中野先生が個別に指導に当たります。担任の中富先生は、7名すべてが操作をし終えたか、ノートに書き終えたかなど、しっかりと確認したのち、学習の大切なポイントを押さえています。途中戸惑い気味だった子供も、最後の練習問題では正しい答えを導き出すことができていました。

授業を参観しながら、「これも雪小の大きな強みのだな」とあらためて感じました。

まぎれもなく、わが雪小は小規模校です。だから、一人一人の子供にしっかりと目を向けられる。それぞれの課題克服に向けて個別の支援ができる。そんなあたりまえが、雪小では、どの学級でもあたりまえに展開されています。

他に誇れる雪小の自慢です。



1年生 音読発表会の様子

## 雪小応援団「つがねの会」

6月13日、今年度第一回目の「つがねの会（学校運営委員会）」が開催されました。雪小っ子の健全育成に長きにわたりご尽力いただいている本会については、すでにみなさまご承知のことかと思いますが、ここであらためてご紹介いたします。

「つがねの会（学校運営委員会）」は、さかのぼること15年前、平成20年8月に設立され、保護者や地域住民、教職員や学識経験者、関係行政機関の代表20名で構成されています。

目的は次の通りです。

### <目的>

「つがねの会」は、保護者や地域住民の要望、意見を学校経営に反映させ、特色ある学校づくりを行うものとする。具体的に次の事項を達成するために設置する。

- 1 教育方針等、学校運営に地域のニーズを的確に反映すること
- 2 地域の創意工夫の導入、特色ある学校づくりを推進すること
- 3 保護者や地域住民が学校と協議し、責任をもって学校づくりを進めること

たびたびお伝えしておりますが、地域との連携は雪小の大きな特色であり、宝です。

その連携のつなぎ役を担ってくださっているのが、この「つがねの会」です。

第1回目の今回は、学校経営方針等についての説明、共通理解ののち、今年度の役員決めが行われ、次のとおり決定しました。

会長...山本 誠治 様

副会長...岩下 誠 様

事務局...山田 千晶 様、作永 紀子 教頭

その後、ロビーコンサートの開催を含めた本年度の活動内容についても熱心に協議していただきました。

参加者の多くは、ご自身のお子さんが現在雪小に在籍しているわけではありません。それにもかかわらず、雪小を愛し、雪小っ子のための取組や活動について真剣に考え、実行して下さっているのです。「雪小は、そして雪小っ子は、本当に幸せものだなあ」

これも、他に誇れる雪小の自慢です。

(文責 校長)